

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

1日

友引 参

旧9月18日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

しゆ

なん

ひ

いつ

衆難非一

「人々の災難は一つではない」

災の勢いが増す中で、獣や虫や鬼たちが互いに喰らい合う浅ましい様相は、私たちの心の中で起こっていることの諭えです。

さまざまな災いや苦しみが同時に起こり、迷いが縦横無尽に絡み合っている状態です。

ところがその自分の心の状態に気づかず、火宅から出ようともしないのが私たちです。

そんな私たちを心配して、火宅に飛び込んで、救いの声をかけてくださるのが仏さまです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯
2023年

11月

2日

先負 井

旧9月19日

木曜

妙法蓮華経譬喩品第三

猶故樂著 嬉戲不已

「楽しみに執着し、喜び戯れることを止めない」

父親が火宅に飛び込み、言葉を尽くして、危機を訴えても、子供たちは互いに戯れ合い、楽しみに執着して、一向に外に出ようとしません。快楽に溺れ、好き勝手に振舞い、仏さまの教えに近づこうとしない私たちのようです。仏さまが語りかけてくださっても、聴こうとしなければ聴こえません。このままいつまでも戯れ続けていると、大変なことになりかねません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

3日

文化の日

仏滅 鬼

旧9月20日

金曜

妙法蓮華経日宇喻品第三

こんししゃたく

むいつからく

今此舎宅 無一可樂

「今この舎宅には、楽しみはない」

父親から見たら、今この火宅の中には楽しむべきことは一つもないのに、子供たちは偽りの楽しみの中で戯れ、父親の声を聴こうとしない。私たち凡夫が、今楽しいと感じていることも、未来の苦しみの元であるかもしれませぬ。大量消費社会の便利な暮らしが、実は遠い異国の人々を苦しめているのかもしれない。自分勝手に他人に迷惑をかけて大騒ぎをしていないか、振り返ってみましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

4日

大安 柳

旧9月21日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

馳走而出 到於空地

ち そう に しゅつ どう お くう ち

「火宅から外へ走り出て、空き地に至る」

門の外に三種の珍しい車があると父親の呼ぶ声に誘われて、子供たちは自ら、火宅の外の空き地に出ることができました。

煩惱まみれの子供に大切な教えを説いたとしても、「教えを聞けば浄土に行けるだろう」と甘えた考えを抱くことになりかねません。そこで父親は、火宅の中に車を持ち込まずに、子供たちが自らの意志で煩惱まみれの火宅から脱出するのを待っていたのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

5日

赤口 星

旧9月22日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

今正是時

唯垂給与

こんしょうぜじ

ゆいすいきゆうよ

「今がまさに教えをいただく時」

子供たちは、火宅から自分の意志で外に出て
言いつけを聞いたのだから、「車をください」
と、父親に懇願します。

火宅の中で遊んでいた時には、煩惱にまみれ
心の底から楽しんでいなかったのだと気づい
た子供たちは、門の外に出て心清らかになっ
たその時に、仏の道を歩みたいという心持ち
になったのでしよう。
教えを欲したまさにその時です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

6日

先勝 張

旧9月23日

月曜

妙法蓮華経譬喻品第三

き け け ら く

じ ざ い む げ

嬉戯快樂 自在無碍

「仏道の喜び楽しみは自在でとらわれない」

どんなに楽しいことでも、同じことを繰り返していれば飽きてくるものです。

大きな楽しみを求め続けてもきりが無い。

楽しみが得られなければ苦しみに変わる。

人間の楽しみには限界があるのです。

しかし、世の中のため尽くすという楽しみは、他者とも分かち合え、尽くした分だけ楽しみが大きくなるものです。

仏道の楽しみは自在でとらわれないのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

7

日

友引 翼

旧9月24日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

さん がいむ あん

三界無安

ゆ によか たく

猶如火宅

「三界は安きこと無し なお火宅の如し」

譬喻品第三にて繰り返し述べてきたように、私たちが生死流転している迷いの世界は、火宅のようなもので安楽な場所はないです。常に生老病死をはじめとしたたくさんの苦しみに満ちています。炎の勢いは盛んで衰える気配もありません。しかし、悟りを開いた仏さまはこの苦しみの世界から離れ、冷静に私たちを見つめ、手を差し伸べてくださっているのです。

妙法蓮華經譬喻品第三

其宅如是 甚可怖畏 毒害火災 衆難非一 是時宅主 在門外立 聞有人言

〈略〉

飢渴惱急 甚可怖畏 此苦難處 況復大火 諸子無知 雖聞父誨 猶故樂著

嬉戲不已 是時長者 而作是念 諸子如此 益我愁惱 今此舍宅 無一可樂

〈略〉

吾為汝等 造作此車 隨意所樂 可以遊戲 諸子聞說 如此諸車 即時奔競

馳走而出 到於空地 離諸苦難 長者見子 得出火宅 住於四衢 坐師子座

〈略〉

三種宝車 如前所許 諸子出来 当以三車 随汝所欲 今正是時 唯垂給与

〈略〉

以是妙車 等賜諸子 諸子是時 歡喜踊躍 乘是宝車 遊於四方 嬉戲快樂

自在無碍 告舍利弗 我亦如是 衆聖中尊 世間之父 一切衆生 皆是吾子

深著世樂 無有慧心 三界無安 猶如火宅 衆苦充滿 甚可怖畏 常有生老

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

8日

立冬

先負 軫

旧9月25日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

今こん此し三さん界がい

皆かい是ぜ我が有う

「今この三界は 皆是我が有なり」

お釈迦さまは悟りを開き、世間の煩わしきから離れた場所で私たちを見守っています。

そして、悩んでいる私たちを救うために、苦しみに満ちたこの世界に飛びこんできてくださるのです。

火宅の主である長者のように、この世界の治めるのはお釈迦さまであり、この世界の秩序を保ち、苦しみから救う責任があると「主師親の三徳」の「主徳」を説いています。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

9日

仏滅 角

旧9月26日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ごちゆう しゅじょう

しつぜ ごし

其中衆生 悉是吾子

「其の中の衆生 悉く是我が子なり」

この世界に住む者はすべて、お釈迦さまの子供として、仏に成るまで慈愛を持って育むと「主師親の三徳」の「親徳」を説いている部分です。

多くの仏のなかでも、私たちと親子の関係だと宣言されているのはお釈迦さまだけです。

私たちと深い縁を持つ仏さまは、父であるお釈迦さまただ一人なのだ、私たちとの関係を示されているのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

10日

大安 亢

旧9月27日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

唯我一人 能為救護

「唯我一人のみ 能く救護を為す」

お釈迦さまはこの世界に住む者を教え導くただ一人の師であると「主師親の三徳」の「師徳」を説いています。

火宅に迷う私たちを救い護るための智慧を備えているのは、お釈迦さまただ一人です。

法華経を読み、お釈迦さまの智慧に導かれ、私たちの心の中の仏の種を育て、迷い道から抜け出して、仏さまの悟りに近づけるよう努めましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

11日

赤口 氏

旧9月28日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

すいぶきようしよう

にふしんじゆ

雖復教詔 而不信受

「繰り返し教え諭しても、信じ受け入れない」

お釈迦さまは、私たちを救うために繰り返し
教えを説いてくださっているのに、私たちは
それを信受することができません。

「信受」とは教えを信じ、実践することです。

人にはいろいろな欲があり執着し、それを容
易に捨てることができません。

執着が大きい私たちに真実の教えを説いても
受け入れられないので、方便を用いて欲を離
れることから説き、信受へ導かれるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

12日

先勝 房

旧9月29日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

若心決定

「若し心が決定したならば」

仏さまの教えを信じ、実践していくと、心も徐々に固まってきました。

はじめは興味半分に聞いていたり、面倒に思いつながら聞いているかもしれません。

しかし、徐々に心が固まってくると、仏さまの教えを本気で聞いて、さらに信心を深め、菩薩行を実践するようになるでしょう。

そして、迷いを除く力や過去未来を知る智慧が具わり、仏さまに近づいていくのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

13日

仏滅 心

旧10月1日

月曜

妙法蓮華経譬喻品第三

未^み実^{じつ}滅^{めつ}度^ど

「未だ実に」

「苦集滅道」を諦らかにする「四諦」の修行によって苦しみから離れたとしても、それは凡夫の境界から離れたただけで、仏の悟り||滅度とはいえませぬ。

個人的な悩みを解決しても、世の中全体が幸せになるわけではありません。

自分の悩みを解決したうえで、仏さまの教えを実践しながら、世の中のために尽くし続けたその先に、ほんとうの滅度があるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

14日

大安 尾

旧10月2日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

けん

か

こ

ぶつ

見過去仏

「過去の仏に見まえ」

法華経を信じて実行できる人は、今ここで、
仏さまとの縁が結ばれたわけではなく、すで
に前世において過去の仏さまに出会ったこと
がある人なのです。

過去の仏さまに出会って、教えを理解し信じ
実践してきたからこそ、本当の教えを理解で
きる深い智慧がよみがえったのでしよう。

教えに出会うのも、仏に出会うのも、得難く
有難いことなのです。

妙法蓮華經譬喻品第三

今此三界 皆是我有 吾中衆生 悉是吾子 而今此處 多諸患難 唯我一人

能為救護 雖復教詔 而不信受 於諸欲染 貪著深故 是以方便 為說三乘

令諸衆生 知三界苦 開示演說 出世間道 是諸子等 若心決定 具足三明

及六神通 有得緣覺 不退菩薩 汝舍利弗 我為衆生 以此譬諭 說一仏乘

汝等若能 信受是語 一切皆當 得成仏道 是乘微妙 清淨第一 於諸世間

〔略〕

為滅諦故 修行於道 離諸苦縛 名得解脫 是人於何 而得解脫 但離虛妄

名為解脫 其實未得 一切解脫 仏說是人 未實滅度 斯人未得 無上道故

我意不欲 令至滅度 我為法王 於法自在 安穩衆生 故現於世 汝舍利弗

我此法印 為欲利益 世間故說 在所遊方 勿妄宣伝 若有聞者 隨喜頂受

當知是人 阿牡跋致 若有信受 此經法者 是人已曾 見過去仏 恭敬供養

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

15日

赤口 箕

旧10月3日

水曜

妙法蓮華経譬喻品第三

以信得入

い しん とく にゆう

「信を以て入ることを得たり」

智慧第一の舍利弗も、智慧のみの力では法華経の世界に入ることにはできませんでした。

信心が法華経の世界に入る最も必要な条件だと、お釈迦さまは「信」を強調しています。

学問によって智慧を求めただけでは仏道は成し遂げられません。

しかし、「信」が深まってくると学びたいという思いも起きてくるものです。

逆に「信」が崩れると様々な妨げが現れます。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

16日

先勝 斗

旧10月4日

木曜

妙法蓮華経譬喩品第三

じゅう し ひ ぼう

十四 誹謗

「教えに背く過失」

「信」が崩れてくると様々な妨げが生じます。

譬喩品にはその妨げの十四項目を「十四誹謗」として挙げています。

「誹謗」とは、単に悪口を言うことだけではなく、教えに背いた結果が教えを攻撃したと同じになることまでを指しています。

仏さまの教えに沿わない行いをして、教えから離れていくという過失を犯さないために、事細かに示されているのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

17

日

友引 女

旧10月5日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

きょうまん
憍慢

「思い上がり、勝手なことをする」

十四誹謗の一つ目。

「憍慢」とは、思い上がって人を見下し、勝手なことをすること。

新しい情報を見聞きすると、解ったような気分になります。それは単に事柄を覚えただけ、少しも理解したことにはなりません。

解かったつもりになると、それ以上学ぼうとしなくなります。

人に対しても傲慢になるので注意です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

18日

先負 虚

旧10月6日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

懈怠

「精進しないこと」

十四誹謗の二つ目。

「懈怠」とは、なまけること。

精進の反対の意味で、善行を修めることに積極的でない心の状態を指します。

怠惰に過ぎず時間があるならば、仏さまの教えを学び、実践することに充てればよいのに、それをしないのが「懈怠」です。

世の中のことを考えず、自分勝手にふるまう生き方も「懈怠」といえるでしょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

19日

仏滅 危

旧10月7日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

計我けいが

「自分勝手な考えで判断すること」

十四誹謗の三つ目。

「計我」とは、自分勝手な考えで判断すること。

私たちは何事も自分の都合の良いように考えてしまいがちです。

しかし、他人のこととも考えなければ、收拾がつかない世の中になってしまいます。

仏さまの教えまで自分勝手に判断して、思い通りにならないのは仏さまのせいだと逆恨みをして罪を重ねることもなりかねません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月20日 月曜

大安 室

旧10月8日

妙法蓮華経譬喩品第三

せん しぎ

浅識

「知識が浅いこと」

十四謗法の四つ目。

「浅識」とは、知識が浅いこと。

私たちは物事の表面だけを見て解ったつもりになりがちです。

人間が使う言葉や文字には限界があり、仏さまの教えには言葉や文字だけでは表現できないものがたくさんあります。

知識だけで理解できない、言葉や文字の奥にあるものを味わう力が「信」なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

21日

赤口 壁

旧10月9日

火曜

妙法蓮華経譬喻品第三

じゃくよく

著欲

「五欲に執着すること」

十四誹謗の五つ目。

「著欲」とは、目耳鼻舌身の五感から生じる

欲望〓五欲に執着して仏法を顧みないこと。

欲が起こるのは悪いことではありませんが、

欲しいものを得られないと苦が生じます。

欲に執着しすぎることとは避けなければなりません。

せん。

仏法を歩む際には、ときに五欲を離れること

を求められることもあるからです。

妙法蓮華經譬喻品第三

是人已曾	見過去仏	恭敬供養	亦聞是法	若人有能
信汝所説	則為見我	亦見於汝	及比丘僧	竝諸菩薩
斯法華經	為深智説	淺識聞之	迷惑不解	一切声聞
及辟支仏	於此教中	力所不及	汝舍利弗	尚於此經
以信得入	況余声聞	其余声聞	信仏語故	隨順此經
非己智分	又舍利弗	憍慢懈怠	計我見者	莫説此經
凡夫淺識	深著五欲	聞不能解	亦勿為説	若人不信
毀謗此經	則断一切	世間仏種	或復顰蹙	而懷疑惑
汝当聽說	此人罪報	若仏在世	若滅度後	其有誹謗
如斯經典	見有誦誦	書持經者	輕賤憎嫉	而懷結恨
此人罪報	汝今復聽	其人命終	入阿鼻獄	具足一劫
劫尽更生	如是展轉	至無數劫	從地獄出	当墮畜生

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

22日

水曜

小雪

先勝 虚

旧10月10日

妙法蓮華経譬喻品第三

ふ
げ
不
解

「要点を理解できないこと」

十四誹謗の六つ目。

「不解」とは、要点を理解できないこと。

日常の中でも、大事なところを取り違えて、
どうでもいいところに感心して、早合点で、
思い込んでしまうことが多々あります。

仏さまの教えも、着眼点を外して自分勝手に
解釈すると、大事なことが理解できません。

相手が何を言わんとしているのか、常に心が
けましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月23日

勤労感謝の日

友引 婁

旧10月11日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

不信

「仏法を信じないこと」

十四誹謗の七つ目。

「不信」とは、仏法を信じないこと。

自分には理解できないことは信じられないという気持ちだが「不信」です。

理解できないと決めつけてしまうと、理解しようとする努力もしなくなります。

他者も誘って信じない仲間を作り、仏道に入る人の種を断つことにもなるので、その弊害は大きいのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

24日

先負 胃

旧10月12日

金曜

妙法蓮華経譬喻品第三

ひん じゆく

颯感

「不快の情を顔で表すこと」

十四誹謗の八つ目。

「颯感」とは、顔をしかめて不快の情を表わすこと。

こちらが笑顔で語りかけても、相手がしかめ面で、返事もおざなりだと傷つくものです。

仏法は心を整える教えです。

相手の心を波立てる行為は慎みたいものです。

さらに仏さまの教えに対する反感を顔に表すと仏法を弘める妨げにもなるので要注意です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

25日

仏滅 昴

旧10月13日

土曜

妙法蓮華経譬喻品第三

疑惑

ぎ わく

「仏さまの教えに疑いを抱くこと」

十四誹謗の九つ目。

「疑惑」とは、仏さまの教えに疑いを抱くこと。

仏さまの教えが善いのは分かっているが、それを実践して何になるのかと躊躇させるのが「疑惑」です。

善いと知りながら実行できない、悪いと知りながらやめられない、思いきれずにいるのも「疑惑」が心の中にあるからです。

「疑惑」は他者も巻き込むので要注意です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月26日

大安 畢

旧10月14日

日曜

妙法蓮華経譬喻品第三

誹ひ謗ぼう

「他者を悪く言うこと」

十四謗法の十番目。

「誹謗」とは、他者を悪く言うこと。

他者を悪く言うこと、自分の方が優れているよ
うな錯覚を覚えます。

しかし、匿名で誹謗中傷を拡散するような行
為はいただけません。

「災いは口より出て身を破る」といいます。

まして仏法を誹謗する行為は、布教の邪魔を
することになる大きな罪です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

27日

日

赤口 鶯

旧10月15日

月曜

妙法蓮華経譬喻品第三

きよう ぜん

軽善

「善を軽んじること」

十四誹謗の十一番目。

「軽善」とは、人の善行を軽んじること。

どんな小さな善行でも、善いことに変わりありません。

例えば、寄付金の額を比較して「多く出した人はエライ、少額の人にはケチだ」と、他者の善行を軽んじ賤しむのが「軽善」です。

善行を軽んじ、人の足を引っ張りあうと、世の中に善も仏法も弘まりません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月28日 火曜

先勝 参

旧10月16日

妙法蓮華経譬喩品第三

ぞう ぜん

憎善

「善を憎むこと」

十四誹謗の十二番目。

「憎善」とは、善を憎むこと。

自分が善行を積んでいないと、善行を重ねている人が鬱陶しくなり、さらに憎むようになることがあります。

例えば、仲間の内の一人が善い事をして目立つと、他の仲間が「余計なことをするな」といじめに発展することがあります。

善を憎む心ほど恐ろしいものではありません。

妙法蓮華經譬喻品第三

以信得入 況余声聞 其余声聞 信仏語故

隨順此經 非己智分 又舍利弗 隱慢懈怠

計我見者 莫說此經 凡夫淺識 深著五欲

聞不能解 亦勿為說 若人不信 毀謗此經

則斷一切 世間仏種 或復顰蹙 而懷疑惑

汝當聽說 此人罪報 若仏在世 若滅度後

其有誹謗 如斯經典 見有誦誦 書持經者

輕賤憎嫉 而懷結恨 此人罪報 汝今復聽

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月29日 水曜

友引 井

旧10月17日

妙法蓮華経譬喻品第三

嫉善

しつ

ぜん

「善を妬むこと」

十四誹謗の十三番目。

「嫉善」とは、善行を積む人を妬むこと。

善い事をした人には善い報いがあるのは当然のことです。

ところが自分は何もせず、善行を積んでいる人を「うまいことをやって、いい思いをしている」と妬む輩が出てきます。

さらには、仏法を実践している人を排斥しようということにまでなりかねません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

11月

30日

先負 鬼

旧10月18日

木曜

妙法蓮華経譬喻品第三

こん ぜん

恨善

「善を恨むこと」

十四誹謗の十四番目。

「恨善」とは、善行を敵として恨むこと。

善行を積む者がいなくなったら、自分たちが好きないようにできるのにといい思いが強くなると、善行を積む人を恨み、迫害をします。

正しい教えを弘めようとした日蓮聖人を迫害したのも「恨善」の輩です。

善い教えに仏法を恨み迫害を加える罪は最も重いものです。

妙法蓮華經譬喻品第三

以信得入	況余声聞	其余声聞	信仏語故
隨順此經	非己智分	又舍利弗	隱慢懈怠
計我見者	莫說此經	凡夫淺識	深著五欲
聞不能解	亦勿為說	若人不信	毀謗此經
則斷一切	世間仏種	或復顰蹙	而懷疑惑
汝當聽說	此人罪報	若仏在世	若滅度後
其有誹謗	如斯經典	見有誦誦	書持經者
輕賤憎嫉	而懷結恨	此人罪報	汝今復聽